

別紙様式 1

1 学校の現況

## 令和 4 年度学校経営計画表

学校番号	37		学校名	県立玉造工業高等学校				課程	全日制			学校長名	大塚 哲蔵					
教頭名	平間 和雄											事務長名	柳川 富裕					
教職員数	教諭	36	養護教諭	1	養護助教諭	0	常勤講師	2	非常勤講師	7	実習教諭 実習講師 実習助手	8	事務職員	3	技術職員等	4	計	61
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							
	工業に関する学科	113	3							113	3	3						
	機械科			16	0	30	0			46	0	2						
	機械・エネルギー科			7	0	16	1			23	1	2						
	電気科			33	1	38	0			71	1	2						
情報技術科			27	4	36	4			63	8	2							

2 目指す学校像

至誠・勤勉・協和の校訓を基本に、現代社会における工業の果たす役割を理解させ、適切な技能及び技術を習得させる。また、すぐれた個性の伸長と豊かな人間性の育成に努め、社会の発展に寄与する産業人を育成する。

3 三つの方針(スクール・ポリシー)

「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 知識や技術、豊かな心と協調性を身につけた規律ある工業人の育成</li> <li>○ 意欲を持って学習や資格取得、学校生活に取り組み、地域社会で活躍できる工業人の育成</li> </ul>
「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域社会で活躍できる工業人として必要となる基礎的な知識・技術を身につけさせる</li> <li>○ 学習活動や特別活動、部活動を通して、地域社会で活躍できる工業人として必要な人間力や規範意識の育成</li> <li>○ 工業人としての知識・技術の向上を目指し、資格取得や競技会等へ積極的に取り組む</li> <li>○ 卒業後の進路を考慮した計画的な進路指導の実現</li> </ul>
「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 工業に興味を持ち、学業などに積極的に取り組み、ものづくりや資格取得に目的意識を持って取り組む意欲のある生徒</li> <li>○ あいさつができ、教員や友人の話を素直に聞くことができる生徒</li> <li>○ 規律の意義を理解し、互いの人権を尊重し、学校や社会のルールを守ることができる生徒</li> <li>○ 自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒</li> </ul>

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項目	現状分析	課題
教 務	基礎学力向上を図るため、数学Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱで習熟度別授業を展開し、基礎学力の定着に努めている。また、昨年度より化学基礎においても習熟度学習を展開している。しかしながら、学習意欲の向上や家庭学習の習慣化にはいたっていない。そのため、進級はできたが成績不振で単位未修得の生徒が30名を超えている。保護者同席の欠課指導は10名を超える生徒がいる。例年よりは少ない数となっているが、昨年度も新型コロナウイルス感染症予防による一斉休校もあり、授業日数が少なくなっていることを考えると、まだまだ基本的な生活習慣が確立できない生徒が多くいると考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も数学Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、化学基礎において習熟度別授業を実施し、きめ細かな指導を行い、基礎学力の向上と定着を目指す。</li> <li>・学習内容の精選やICT機器、特に教育用タブレットPCの効果的な指導の工夫を図り、自ら学ぶ主体的な授業態度を育むとともに、対話的で深い学びに繋がる授業を展開する。</li> <li>・生徒に明確な進路目標を持たせたり、資格取得に向けた補講を行うことで、学習に対する関心や意欲を向上させるとともに家庭での学習の習慣化を目指す。</li> </ul>
生徒指導	特別指導件数はほぼ横ばい傾向であるが、重大案件は減少傾向にある。コミュニケーション能力が低く、他人に対する思いやりの気持ちが欠け、自分の感情をコントロールできずに喧嘩やスマートフォン関連の事案（SNSを含む）もあり、情報モラル教育も課題である。また、規範意識の低さが故に、その場の雰囲気や気の緩みで社会の規則や学校の校則を守れないケースも多い。交通では、大きな事故は無かったが、登下校時のバイクの乗り方に対する外部からの苦情もある。「遅刻指導」「服装・頭髪指導」を含め、基本的な生活習慣の確立、規範意識を身につけさせるため、日頃から気付いたときに指導する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「安全・安心」の学校づくりを継続し、基本的な生活習慣・規範意識の確立を目指す指導を行う必要がある。その上で発展的な指導が出来るよう基本をしっかりとし身に付けさせていきたい。</li> <li>・「バイク通学者実技講習会」に参加することにより交通安全教育の充実を図り、交通安全意識を向上させる必要がある。</li> <li>・いじめや暴力の早期発見・未然防止のため、生徒観察や声掛け、アンケート、担任との面談の活用など全職員による指導体制の充実が必要である。</li> </ul>
進路指導	就職に関しては一昨年に587件と減少した求人も、昨年度は640件に達した。とくに製造業・情報通信業を中心に増加している。一方で昨年同月に比べ卸売業・小売業では18%、宿泊・飲食サービス業で10%減少している。一部の産業では依然として厳しい状況が続いており、今後新型コロナウイルスや変化する世界情勢の影響を注視していく必要がある。また現在、求人票の電子化を進めており、今年度より生徒が持つタブレットやスマートフォンから閲覧できるように準備している。進学においては、4年生大学7名、専門学校30名。合計37名が、指定校・一般公募推薦または総合型選抜（AO入試）で合格している。昨年比で大学・短大への進学者は若干減少しているが、専門学校への進学者が増え、進学者全体の人数は増加している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の対応を図りながら、対面とオンラインを上手に活用した進路指導を進めていく。</li> <li>・進路行事の内容や実施方法等には、生徒の希望や状況把握に努め、より柔軟な考え方や対応に心掛ける。</li> <li>・3学年の進路決定を見据えて、1・2学年での指導内容や方法を各学年とともに検討し最適化を図っていく。</li> <li>・ハローワークや外部関係機関との連携を強化し、新たな情報や必要な知識を生徒・保護者に伝えていく。</li> </ul>
学習指導	義務教育段階で身に付けるべき計算力・漢字力が身に付いていない、または授業を受ける態度や姿勢などが習慣化されていない生徒がいる。朝のSHR後の10分間を読書の時間、基礎学力向上の時間に充てている。多くの生徒が落ち着いて過ごしている。令和3年度図書館来館者（昼休みと放課後）数は、令和2年度と同様に少ない。進学希望者のための課外授業を実施している参加者が少ない。その反面、資格取得講座の補習については積極的な参加者が多くみられるのは例年通りである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きちんと授業を受ける習慣を身につけさせるとともに、義務教育段階の基礎学力定着に努める。</li> <li>・シラバスを科・コース選択時以外でも活用し、生徒が授業に興味・関心を抱くように努める。</li> <li>・図書館から引き続き情報を発信し、図書館へ足を運ぶ機会を増やす。</li> <li>・生徒向け図書を増やしたり、ミニ館報などを用いたりして、生徒の来館数を増やす。</li> <li>・課外授業については進学試験だけでなく、就職試験や検定試験も視野に入れ、生徒に積極的に参加をアピールする。</li> </ul>
保健厚生	現在、教育現場において新型コロナウイルス感染症のクラスター発生が県内でも報告されている。今後、更に新型コロナウイルス対策には細心の注意を払っていく必要がある。また、近年は地震や大雨による自然災害や、様々な事故が見受けられる。各部署と連携し、様々な災害の対策について検討を行い、防災体制の確立と事態に備えた準備・訓練を行っていく必要がある。今後は、想定される各種災害に対する防災体制の確立と防災マニュアルの見直しを図り、各訓練の内容をより効果的なものとしていく。 多様化する生徒に伴い、特別な支援を要する生徒も増加傾向にある。今後、個に応じた支援ができる体制を維持していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナ感染防止を考慮して校内の衛生面に細心の注意を払う。</li> <li>・各部署との連絡を密にし、事故・災害に迅速に対応出来る体制を維持する。</li> <li>・防災避難訓練を年に2回実施する。訓練内容はコロナ感染対策を行いながら実施できる内容を検討する。</li> <li>・特別支援の充実を図る。学年・教科と連携し支援を必要とする生徒の早期発見と適切な支援を行う。</li> <li>・想定される各種災害に対する防災マニュアルを検討・作成する。</li> </ul>
渉 外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止対策を施し、マナーアップ運動を3回企画したうちの1回行うことができた。各地区から更なる協力を仰ぎ、本運動の充実を図りたい。</li> <li>・広報誌を大幅にリニューアルを行った。魅力ある学校づくりをするために、更なるブラッシュアップが必要と考える。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大により、会議の開催ができず、保護者の実態に合った役員の精査、会則の改正が滞っている状況である。</li> <li>・10月より、2コースのみであるが、チャーターバス2便を復活させた。これによって、課外活動及び部活動の参加率を伸ばすことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止対策を徹底しながらPTA活動（あいさつ運動、研修旅行、総会等）を充実させる。</li> <li>・保護者の積極的な学校行事参加（体育祭等）を促す。</li> <li>・PTA・後援会会則の見直しを行う。</li> <li>・チャーターバスの安全運行を徹底する。</li> </ul>
特別活動	部活動については、各部活動顧問の工夫や努力の結果、部活動の継続率は高い。しかし、部活動加入率は微増となっている。さらに部活動加入率を向上させるために部活動紹介の行い方や顧問会議の運営を工夫していきたい。学校行事については、キャリア・パスポートを活用し、生徒が自発的・自主的に学校行事に参加できるように促す。また、学校ホームページを活用し本校の部活動や学校行事を積極的に校外へ発信する。	部活動については、部活動紹介の行い方を工夫し、部活動の加入率を上げ活性化を目指す。また、部活動顧問会議を定期的に開催し、連絡を密にして学校全体の部活動の継続率を上げたい。さらに、ホームページを活用し、地域の方々にも本校の活動を知っていただけるように工夫する。 学校行事については、新型コロナウイルス感染防止を徹底しながら、可能な限り学年ごとから学校全体で行えるようにしていきたい。また、キャリアパスポートを活用し、生徒達が自主的に参加できるように促す。
働き方改革	部活動の指導、資格試験・各種検定試験の指導、生徒・保護者対応、学校行事の運営など多くの業務を担当し時間外労働が多くなっている職員がいる。各校務の内容の明確化、学校行事の簡素化、会議の効率化などが必要である。	ストレスチェックの結果、高ストレスを抱える職員がいる。時間外労働の削減に取り組み、高ストレスを抱える職員のストレス解消が課題である。

5 中期的目標

- ・基礎学力の向上を図る。
- ・ICTを活用した、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の実現
- ・基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。
- ・学校の教育活動全般をとおして、キャリア教育の充実を図る。
- ・部活動や特別活動を充実させる。
- ・地域と連携を図り、開かれた学校づくりに努める。
- ・校務の改善、学校行事の見直しと職員のワーク・ライフ・バランスの推進を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
分かる授業の展開による基礎学力の向上と授業でのICTの効果的な活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒の実態に応じ、学習内容を精選して基礎学力の向上を図る。</li> <li>② 各教科内で研修を充実させ、分かる授業の展開と教科間の連携を図る。</li> <li>③ 学習規律の向上を目指すとともに、習熟度別授業の充実を図る。</li> <li>④ 生徒の主体的に学ぶ意識を育むため、家庭学習の定着化を図る。</li> <li>⑤ 資格取得指導の充実を図る。</li> <li>⑥ 進学希望者へ適切な指導を計画実施する。</li> <li>⑦ タブレット端末を活用した授業の開発を推進する。</li> </ul>
基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を図るとともに、交通安全教育の推進に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑧ 挨拶の励行と欠席・遅刻・早退の減少に努める。</li> <li>⑨ 頭髪や服装等を正そうとする意識を身につけさせる。</li> <li>⑩ 社会人として必要な公共のマナーを身につけさせる。</li> <li>⑪ 保護者や関係機関との連携を密にとり、生徒の安全確保に努める。</li> <li>⑫ 交通安全教育を推進し、交通安全に対する意識の向上を図る。</li> </ul>
望ましい勤労観や職業観の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑬ 全学年を通じ、計画的に進路に対する意識向上を図り、希望進路の実現を図る。</li> <li>⑭ 企業見学やインターンシップを実施、また外部講師による講話、キャリアパスポートの活用などキャリア教育の充実を図る。</li> <li>⑮ 企業及び大学等の情報を広く収集し、進路選択に役立たせる。</li> </ul>
学校行事の充実ならびに、部活動及び奉仕体験活動の活発化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑯ 学校行事を通して生徒と保護者や地域との交流を図り、より充実感や達成感のあるものにする。</li> <li>⑰ 部活動加入率を高め、活性化を図る。</li> <li>⑱ 奉仕体験活動を充実させる。</li> <li>⑲ 生徒の委員会活動を活発にする。</li> <li>⑳ キャリアパスポートの活用により、自発的・自主的な学校行事への参加を促す。</li> </ul>
中学校や地域と連携を図り、開かれた学校づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉑ 近隣中学校並びに地域への広報活動を充実させる。</li> <li>㉒ 小中学校への出前授業を行う。</li> <li>㉓ 行事を本校及び教育委員会のホームページ上で発信する。</li> <li>㉔ 生徒・保護者及び教職員の相互の信頼関係を深める。</li> <li>㉕ 個人情報の保護、管理の徹底に努める。</li> </ul>
安全で衛生的な環境作りを目指し、心身ともに健やかに学校生活を送れるように努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉖ 心と体の健康に留意し、健全な生活を送れるような体制作りを努める。</li> <li>㉗ 安全で衛生的な環境作りを努める。</li> <li>㉘ 不測の事態に備え、防災意識を高める。</li> </ul>
働き方改革の実現に向け、校務の改善、学校行事の見直しに努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉙ 各校務のマニュアルの作成及び内容の明確化を図る。</li> <li>㉚ 学校行事の簡素化など見直しを行う。</li> <li>㉛ 会議の効率化を図る。</li> <li>㉜ 勤務時間に対する意識を高め、時間外勤務の短縮に努める。</li> </ul>